



令和 7年 5月24日

ご関係の皆様方へ

大阪市立大宮西小学校
校長 原 雅史

「主体的対話的で深い学び」のある授業づくり研究

大宮西小学校 第1回 全市公開授業のお知らせ (兼 学力向上支援チーム事業 研究授業)

初夏の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

本校では、新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学びのある授業（＝学び合い）」づくりを研究テーマに据えて、日々研鑽を重ねているところです。

このたび、次の要領で第1回目の全市公開授業を実施いたします。学校行事等でお忙しい候かと存じますが、「主体的対話的で深い学びのある授業」の実践事例の1つとして、ぜひご見学いただき、皆様とともに学び合えますことを願っております。どうぞお気軽にご参加くださいますようお願い申しあげます。

1 開催日時

- ・実施日 6月18日（水）
- ・中心授業 6年2組 教科：国語「風切るつばさ」 授業者：福本 快人
- ・スーパーバイザー 小畠 公志郎 先生（元宝塚市立小学校校長）
著書 授業づくりで子どもが伸びる、教師が育つ、学校が変わる
～「学校づくりセミナー」における「協同的学び」の実践 など

2 会場

大阪市立大宮西小学校（大阪メトロ谷町線「千林大宮駅」下車 西へ800m）
大阪市旭区中宮1-8-14 電話 6953-0800

3 公開授業 時程

（公開授業①②③では全クラスで公開しています）

9:00 9:35 10:20 10:35 11:20 11:30 12:15 13:30 14:15 14:30 15:20 16:20

受付	公開授業①		公開授業②		公開授業③	休憩	中心授業 6年2組	休憩	研究協議	スーパーバイザー 講話
----	-------	--	-------	--	-------	----	--------------	----	------	----------------

※公開授業だけでも、中心授業からでもご参加いただけます。昼食は各自ご準備ください。

※ビデオ撮影を希望される方は受付でおっしゃってください。研究用としてのみご利用いただき、SNSなどへのアップはおやめください。

※授業中は授業の妨げにならないよう、後ろ、前、横からのみご覧ください。（子どもの中には入らないでください）また、授業中児童には話しかけないでください。

4 申込方法

① スキップメール 大阪市立大宮西小学校 教頭 石井 裕子 まで
② FAX 別紙のFAX送信票でお申し込みください。

■ 大宮西小学校 研修会・研究会の予定

下記の研修会、研究会は原則全て公開しております。

参加を希望される先生は、上記同様本校へご連絡ください。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

月	日	曜	全市公開	ビデオ研	校内研修	公開研修会	講師	担当・授業者
4	2	水			1		校長	学び合いとは 1
	4	金			2		校長	学び合いとは 2 (兼新転任研修)
	23	水		1				5年2組 国語「おにぎり石の伝説」
5	21	水		2				5年2組 国語「世界一やかましい音」
6	18	水	1				小畠 sv	全学級 中心授業 6年2組
7	9	水		3				4年1組 未定
	24	木				1	校長	公開研修会 算数・数学科
	25	金				2	校長	公開研修会 国語科
	29	火				3	校長	公開研修会 ボードゲーム
8	21	木				4	校長	公開研修会 管理職対象
	22	金				5	校長	公開研修会 社会科 (兼 旭区教育研究会)
9		水		4				ビデオ研 (未定)
		水		5				ビデオ研 (未定)
10		水		6				ビデオ研 (未定)
		水		7				ビデオ研 (未定)
11	19	木	2				小畠 sv	全学級 中心授業 5年1組
12		水		8				ビデオ研 (未定)
1		水		9				ビデオ研 (未定)
	27	火	3				佐藤学 sv	全学級 中心授業 5年2組
2		水		10				ビデオ研 (未定)
		水		11				ビデオ研 (未定)
3		水						全学級
	23	月			3		校長	1年間のまとめ

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり(7)

「学び合いは、方法論ではなく教育観の変革が必要なんですね」

今までに、何度か全市公開授業をさせていただき、多くの先生方に主体的対話的で深い学び（学び合い）のある教室を見ていただきました。また公開研修会にも毎回3～40名の方にご参加いただき、大阪市にもこれほど多くの先生方が、学び合いの授業を望まれていることにうれしさを感じております。

そして、これらの研究授業会、研修会で必ずといっていいぐらいに聞かれる質問が「どうしたら、こんなふうに子どもが主体になった授業ができるのですか？」「どうしたら、これほど子どもから子どもにつなぐ授業ができるのですか？」なのです。そして、これらの質問に対する答えもいつも決まっておりまして、「このような授業は、すぐにはできません。特にハウツー的に、考えておられたら、いつまでたっても学び合いの授業は難しいでしょう。」とお答えしています。つまり、机の配置をコの字にしたから、あるいは4人グループにしたから、学び合う教室にはならないのです。もちろん、

これらの教室環境の整備はとても重要なので、無駄なプロセスではありませんが、A⇒Bのように何かをしたから、すぐに子どもが主体的に学び出すわけではないということです。では、学び合いの教室をつくるためには、ハウツー的な観点ではなく、コンセプト的には何をしなければいけないのでしょうか。

今回学校を異動しまして、新しく多くの先生方、子どもたちと出会い、学び合う学級、学校づくりに取り組み始めています。そんなときに、ある先生から「主体的、対話的で深い学びの授業って、方法論ではなく、教育観の変革なのですね。今までの自分の授業は何だったのだろうと、昔の教え子たちに申し訳なく思い始めました。」という話を聞きました。そのとおり、この学び合いの授業は、ちょっとした指導方法の変化どころではなく、授業者の教育観を揺さぶるものなのです。このことに気づかれたこの先生の授業は、みるみるうちに学び合う授業になっていきました。

学び合いは、方法論ではなく、子ども主体の授業をつくりたいという、切なる願いを、授業者がどこまでも、ぶれずに持ち続けることができるかが、重要なのです。

とはいっても、校内でたった一人でこのような観点にたち、一人で学び合う授業をつくることは、かなりの努力、そして勇気のいること思います。日本全国を見渡すと、一人で学び合いを押し進めている先生は実は少なくありません。

また、「学び合う授業をつくっていきたいけれど、本当にどうしていいかわからない」という先生方、ぜひ本校の公開研修で、実際の学び合いの授業を見て、またスーパーバイザーのお話を聞いて、明日からの学び合いの授業づくりのエネルギーに

していただけたらと思います。（また、今年度もいくつかの学校によばれているのですが、実際に授業をしているところを見て、私の方からレスポンスをさせていただいてもあります。）

最後に、本校では「学び合い通信」というものを出しているのですが、学び合いの授業づくりのヒントになればと思い、最新号を掲載いたします。お時間があるときにでも、ご一読していただけましたら幸いです。

「学び合い」通信 大阪市立大宮西小学校 令和7年5月22日 vol.11

1 子どもの成長をたくさん「見取る」ことができました ~第2回ビデオ研(国語)~

まずは、授業者の先生、そして何より子どもたち、とても素敵な国語の授業をありがとうございました。私も皆様と同様、この授業からは、様々なことを学びとることができました。

(1) 子どもの学び 何といっても子どもたちの学びが大きく成長していました。

(中略) 音読のときに、素敵な学びを見せていただいたのが、MさんとNさんのペアです。高学年にもなると、恥ずかしさも出てきて、ペアで深い学び合いになるのは難しいこともあるのですが、この二人からはそんなことを微塵も感じさせない、確かな音読を見取ることができます。二人でしっかり指でなぞって読んでいるからこそ、この後の聞き合いが充実するであろうことは、容易に想像することができます。

この授業のクライマックスは、21分過ぎから始まりました、子どもから子どもへのつなぎかと思います。授業者より「教科書と絵本をくらべてどうですか?」とたずねると、Pさんが「マイルドな感じがする…」と、しばらくしてからQさんがつなぎ、さらに授業者の「どんなイメージ」という促しが入り、RさんSさんTさんとつながっていく様は見ていて感動しました。子どもから子どもにつながり始めた「瞬間」を見ることができました。まさに子どもの成長点でした。（次の時間でも、この楽しさに芽生えた子どもたちが、どんどんつながり出したと聞きます。）

(2) 指導について

よく授業研究会などで、「どうしたら、こんなに子どもから子どもにつながるのですか?」という質問を受けます。が、ここまで見てきましたように、それは簡単なことではありません。この授業から考えますと、丁寧な音読と、子ども同士がフラットに聞きあえる安心した教室環境など、やはり子どもの成長と、それを支える授業者の存在は不可欠だと思います。そして、授業者が教えたから、何かをしたからすぐに出来上がるのではなく、むしろ授業者が子どもの発言を待つ「我慢」をしたからこそつながったと言えるかと思います。

子ども同士がつながる授業にあこがれをもつ授業者はたくさんおられるかと思いますが、それは決してテクニカルなものだけではなく、「子ども中心の授業を行いたい」という授業者の切なる思いが、根底にあるからこそ実現するのだと、私もこの授業から学ばせてもらいました。

また、この教科書の原典にもなった絵本をご準備されたことにも、頭が下がります。このように、丹念な教材研究を行う授業者のエネルギーこそ、子どもを学びに向かわせる何よりも原動力になるかと思います。また、この絵本をマス刷りし製本作成された先生にも心より敬意を表したいと思います。ありがとうございました。

(3) 作品について

「ごんぎつね、おにたのぼうし、やまなし、川とノリオ…など児童文学とはいえ、大人が読んでも、じっくり読み深めたくなるようなものはいくつもあります。この「世界一やかましい音」については、そこまで読み込めるものはないかと思っていました。しかし、今回作品研究会などを通じて、案外内容のあるお話しだということが見えてきました。実際子どもたちも、この立て札の意味は？ 読点の有無は？などの核心的なところを聞き合っていましたので、この作品を見つめ直したところです。

「ごんぎつね」の兵十と加助が、お念仏にいく行きと帰りにおいて、ごんとの距離感の違いを新美南吉は研ぎ澄まされた表現で著していました。丁寧に音読することで、子どもは大人が気が付かないようなところまで、読みを深めていきます。そのとき、その物語のエッセンシャルなところを授業者がつかんでいるかどうかで、深まる方向は変わると言わわれていますので、ご留意ください。なお、方向が変わってきたときは、子どもの読み描いたものを否定するのではなく、音読で軌道修正をお願いします。

最後に、授業の研究協議会の中身が、子ども主体、子どもを主語にして、学ばれたことを交流なさっていたことに感動しました。教師がしゃべらなくても子どもがあれだけ学び合い、振り返りもたくさん書く、Xさんの髪り、Yさんの色の違いのお話し、Zさんの挿絵への注目度など、どの先生方にとっても明日からの授業に活かされる授業研究会であったのではと感じました。素敵な授業ビデオ研究会をありがとうございました。

FAX番号 06-6953-6728

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先	大阪市立 大宮西小学校 教頭 石井 裕子 TEL 06-6953-0800 FAX 06-6953-6728
-----	---

送付元	所属名(学校名)			
	ご担当者			
送付期日	各公開授業・研究会の2日前まで			
件名	全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参加者	職名	お名前	参加希望日	

【お問合せ先】 大阪市立大宮西小学校 (電話) 06-6953-0800 教頭 石井まで
